

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 ~7日	3月 ~14日	3月 ~21日	3月 ~28日	4月 ~4日	4月 ~11日	4月 ~18日	4月 ~25日	5月 ~2日	5月 ~9日	5月 ~16日	5月 ~23日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	65	29	29	38	41	42	21	21	30	22	26	43	43
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	25	8	10	19	15	15	4	17	25	16	9	9 (12)	5
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	5	1	0	1	1	1	0	0	1	0	2	0	
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	16	6	9	11	7	8	3	5	3	3	8	9	10
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	10	2	6	4	3	5	5	6	9	9	8	5	2
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	1	1	2	0	2	0
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	5	1	3	1	1	4	3	3	1	3	3	2	3

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報 令和3年第20週(5月17日~5月23日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	2	結核	2	1		1				
三類	0	発生なし	0							
四類	7	重症熱性血小板減少症候群	1			1				
		日本紅斑熱	4			1		2	1	
		レジオネラ症	2					2		
五類	3	百日咳	1		1					
		梅毒	2				1	1		
新型コロナウイルス感染症	1280	新型コロナウイルス感染症	1280	115	61	39	14	958	23	70

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第20週は、新規感染者数は、958件の報告がありました。感染が急速に拡大した4月下旬以降の新規感染者は、20歳代を中心に若い世代で多く確認されています。また、変異株の検査を行った新規感染者のうち、8割以上が変異株であることが判明しています。さらに、これまで確認されていた英国型変異株に加え、初めてインド型変異株が確認されました。誰もが感染するという意識を強く持ち、基本的な感染対策を徹底しましょう。

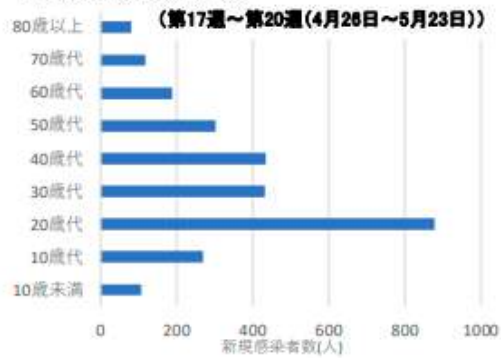
新型コロナウイルス変異株について

	英国型変異株	インド型変異株
主な変異	N501Y	L452R (E484Q)
感染性 (従来株比)	1.32倍と推定* [5～7割程度 高い可能性]	高い可能性
重症度 (従来株比)	1.4倍(40-64歳1.66倍)と推定* [入院 死亡リスクが高い可能性]	重症度に影響がある証拠なし
再感染や ワクチン効果 (従来株比)	効果に影響がある証拠なし	ワクチンと抗体医薬の 効果を弱める可能性

*感染性・重症度は、国立感染症研究所等による日本国内症例の疫学的分析結果に基づくもの。ただし、重症度については、本結果のみから変異株の重症度について結論づけることは困難。

厚生労働省:第35回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(令和3年5月19日)資料4より(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000781685.pdf>)

年齢階層別新規感染者数



2 RSウイルス感染症

定点当たり1.00人と、例年同時期と比べて多くなっています。生後数カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、咳等の呼吸器症状がある人との接触を避けるなどの注意が必要です。

[参考]RSウイルス感染症Q&A(厚生労働省) https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.12		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.34	
	咽頭結膜熱	11	0.46	0.59			RSウイルス感染症	24	1.00	0.12	▲
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	0.46	2.20		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	162	6.75	6.05	▶		流行性角結膜炎	-	-	0.69	
	水痘	3	0.13	0.13		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	1	0.04	1.11			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.39			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.08	
	突発性発しん	8	0.33	0.31			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	0.03	
	ヘルパンギーナ	-	-	0.38		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.28		

急増減 ▲ (前週と比較しておおむね1:2以上の増減)

増減 ▲ (前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減)

微増減 ▲ (前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減)

横ばい ◻ (ほとんど増減なし)

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	レジオネラ症	2	10	80歳代・市外、90歳代
5	梅毒	1	22	20歳代